

くすのき



岡本小学校 学校だより

No. 6

令和4年9月2日

『生き生き学校2』

《学校教育目標》 夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成



大切な人はだれですか

夏休みが始まる前日の朝会で「夏休みだからこそできることに、ぜひ挑戦をしてください」と伝えました。夏休みが終わり、久しぶりに再会したどの子どもたちも、元気に「おはようございます」の挨拶を返してくれました。それぞれの楽しみ方で充実した夏を過ごすことができたのだろうと想像しています。約40日間のご家庭での見守り、ありがとうございました。

さて、今年は太平洋戦争が終わって77年目を迎えました。8月29日の朝会では、「大切な人はだれですか」というテーマで話をしました。実はこれは、8月6日「広島原爆の日」に行われた平和祈念式典での「平和への誓い」の題名です。

戦争は決して遠い昔のことではなく、遠い世界のことでもありません。今も戦争をしている国があり、その悲惨な状況を日々のニュース等で目にするたびに心が打ちひしがれます。「平和な世界」を創るために、私たちは何をすべきかを考えるきっかけとしたいと思いました。

あなたにとって、大切な人は誰ですか。

家族、友達、先生。

私たちには、大切な人がたくさんいます。

大切な人と一緒に過ごす。

笑い合う。

そんな当たり前の日常はとても幸せです。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。

(中略)

大切な人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や未来が突然奪われました。

あれから77年経ちました。

今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。

戦争は、昔のことではないのです。

自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。

本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。

本当の強さをもてば、戦争は起こらないはず。過去に起こったことを変えることはできません。

しかし、未来は創ることができます。

(中略)

自分も周りの人も大切に、互いに助け合うこと。

世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓います。

「みなさんは、この言葉を聴いてどんなことを感じましたか。」という私の問いに、6年生の児童2名がこのように応えてくれました。

「思っているだけでなく、行動を起こすということが大切だと思いました。」

「今ある当たり前は当たり前ではなく、みんなの力で築き上げてきたものだと感じました。」さすが6年生、素晴らしい感想でした。

私は、リアルタイムで、広島市の小学6年生子ども代表による「平和への誓い」の映像を見ていましたが、「本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。」という言葉が、胸の奥まで響きました。

「ちがいをみとめる」ことは、大人でも難しいことです。人間ですから、意見や考え方に相違があったり、自分と相性の合わない人がいたりするのは当然です。そういう人といがみ合うのではなく、受け入れる練習を小さい頃からしていくことが必要だと思います。

絵本「みえるとか みえないとか」(ヨシタケ シンスケ・作)の中にこんな言葉があります。

「おなじところをさがしながら、ちがうところをおたがいにおもしろがればいいんだね」

そうしたコミュニケーションが「ちがいをみとめる」ことにつながるのでしょうか。

あなたにとって、一人でも「大切に思える人」が増えますように…平和への道は、私たちの身近なところにあるのかもしれない。



「夏休み、先生たちは何してる？～疑問にお答えします～」

不祥事防止研修会

県西教育事務所 足柄上指導課の杉山 孝史指導員（本校第36代校長）をお招きし、不祥事防止研修会を行いました。片岡教頭がファシリテータとなり、ある事例をもとに、なぜ不祥事が起こったのか、起こさないためにはどんなことが必要かなどについて話し合いました。教職員の不祥事のニュースが流れるたびに心が痛みます。

一人ひとりが当事者意識をもつこと、明るい風通しの良い職場環境をつくることを再確認しました。



人権教育研修会

私たち教職員の人権感覚を磨くことは、教育の根幹であると考えています。今年度は、櫻井教諭がファシリテータとなり、「人権問題にかかる13の分野（子どもの人権、障がい者、インターネットによる人権侵害等）」について再確認し共通理解を図るとともに、児童虐待から子どもを守るための方策について学びました。「人権教育は、自分の生き方を見つめ、共に人生観を築き上げる教育です」という言葉が、大変印象に残りました。キーワードは、「自分も大切に、人も大切に」です。

このように学校教職員は、校内や校外で、子どもたちへのより良い教育のために、研鑽を深めたり、夏休み以降の授業準備をしたりしています。もちろん、適度に休みをとり心と体を休めることもしています。

学習会の開催

8月26日に学習会を行いました。やはり、子どもあつての「学校」です。参加は希望制でしたが、どの学年にも参加者がおり、久しぶりに子どもたちの元気な声が響き渡りました。

夏休みの宿題の続きをしたり、分からない学習を教わったり、学年の先生や友達との会話を楽しみながら、少人数で和気藹々と学びました。



わたしのひとりごと…

ラジオでこんな話を聴きました。

「幸せ」には2通りある。誰かに自分が「してもらって幸せ」と、自分が誰かに「してあげる幸せ」。「してあげる幸せ」を豊かにしていきましょ。なぜなら、「してあげる幸せ」を感じられるようになると、自分の人生は前向きになるから。私は、子どもたちから、たくさんのお幸せをもらっていることに気づかされました。

「してあげる幸せ」とは、お友達に何かをしてあげる、家族のために何かをやってあげる、などです。やってあげた人達が喜ぶ、喜ぶ顔を見ると「やってよかった」と自分も幸せな気持ちになる。好循環が生まれます。しかし、人から「あなた自身の幸せのために誰かに何かをしてあげなさい」「友達に優しくしてあげなさい」と言われたところで、「うん、今日から実行しよう」とは、おそらくならないでしょう。

これも、以前聴いた話です。幸せには3つあるというのです。一番めは「してもらって幸せ」。おなかがいいたらミルクをもらう、眠くなったら抱っこしてもらって…赤ちゃん時代は、まさに「してもらって幸せ」ばかりですね。

二番めは「できる幸せ」。自分で箸をもって食べられるようになる、学校でかけ算ができるようになる、漢字が書けるようになる。集団生活が始まると「できる幸せ」が一つずつ増えていきます。そして、三番めが「してあげる幸せ」です。

「してもらって幸せ」を十分に経験し、これを土台に「できる幸せ」が積み上がることで他者の気持ちに寄り添う素地が育まれ、「だれかのために何かをしてあげよう」という気持ちが芽生えるのではないかと思います。つまり、幼少期には、「してもらって幸せ」と「できる幸せ」を十分に堪能させる必要がありそうです。

さて、私たち大人は、「してあげる幸せ」を感じられているでしょうか。